

「がんと生きる言葉の処方箋」「認知症と生きる希望の処方箋」に続く処方箋シリーズ第3弾

ドキュメンタリー映画

Dr.カキゾエ

歩く処方箋

～みちのく潮風トレイルを往く～



歩け、歩け。逆境にたたきかへても、
人は復活する力を持っている。仲間とする
医師は、みちのくの旅でなにを見つけたか。

山崎光三郎

2026. 9. 19 9時～11時30分

国立市でのDr. カキゾエ 歩く処方箋

～みちのく潮風トレイルを往く～上映案内

昨年8月に新宿武蔵野館で初公開された「Dr.カキゾエ 歩く処方箋」が全国、劇場53ヶ所、自主公演40ヶ所での上映を終え、垣添先生のゆかりの地、国立市にて自主公演をいたします。お申込は

ueda@oval-ad.co.jp (若き音楽家を育てる会・上田幸伺)に氏名(団体名)・人数・メールアドレス・電話番号をお知らせください。お申込み確認後、いただいたメールアドレスに予約NOを差し上げます。

日時:2026年9月19日(土)9時 受付 9時30分上映 11時45分終了

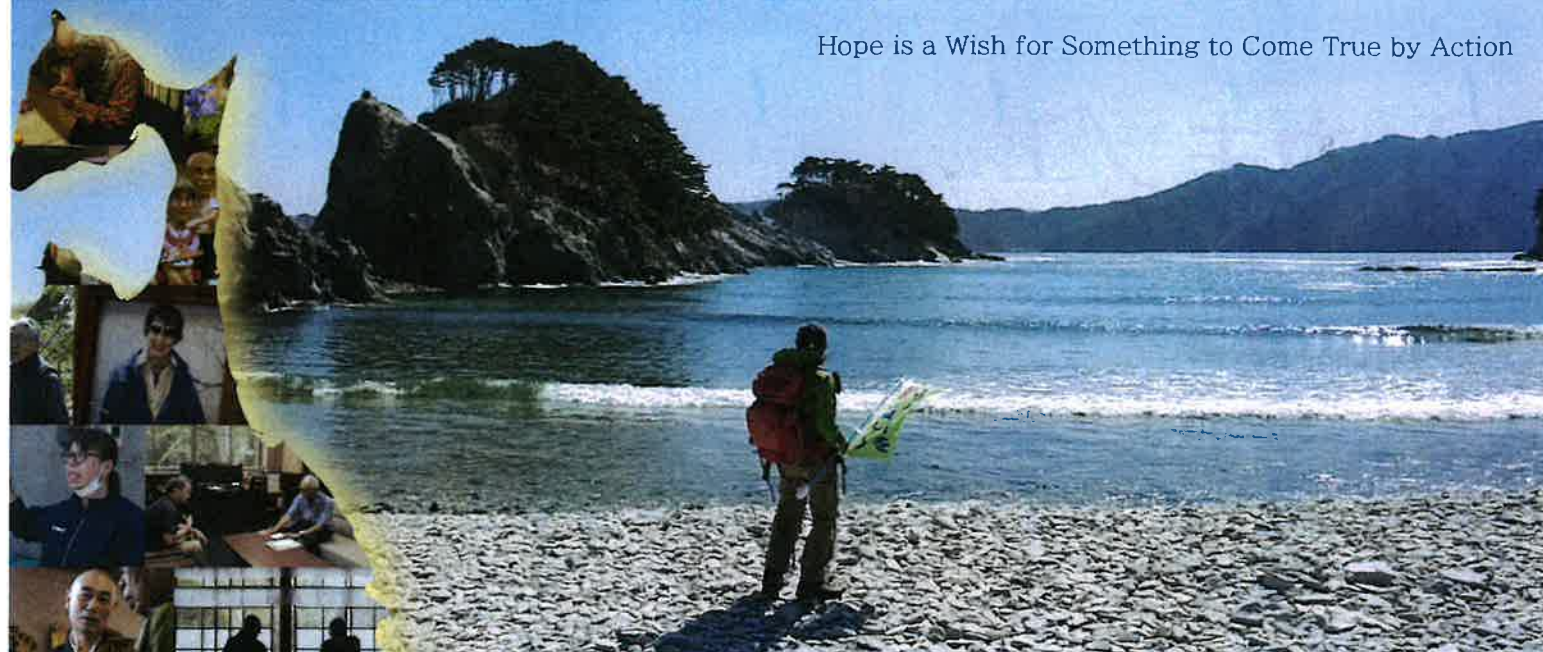
場所:くにたち市民芸術小ホール 国立市富士見台 2-48-1

JR 国立駅からバス、JR 矢川駅/谷保駅から徒歩10分

鑑賞料金:1000円

主催:若き音楽家を育てる会 上田幸伺

メール:ueda@oval-ad.co.jp HP:090-2462-4005



がんの専門家である垣添忠生医師が、青森県八戸市から福島県相馬市までのみちのく潮風トレイル1025キロを歩くロードムービーです。

歩くことで、がんサバイバーの支援と東日本大震災の被災者の心の傷に少しでも寄り添いたいという思いから、82歳になるドクターカキゾエは、歩く決意をしました。

雨が降っても、風が吹き荒れても、ひたすら歩き続けます。移り変わる美しい自然の風景とともに、歩くときさまざまな人々との出会いが生まれます。がんと共に生きる女性、震災の悲しみをそれぞれのやり方で乗り越えようとしている人々。ドクターカキゾエは、歩きながら思索を重ね、確信したことがあります。

「がんでも、震災でも、人は逆境にたたされても、必ず復活する力を持っている。」復活する人の強さとは何か？

映画は、静かにその答えを示唆してくれます。

がんサバイバーと3.11被災者に出会う Dr.カキゾエ・82才の1025km

奥様を亡くした消えない悲しみに抗うような、垣添先生のひたすらな歩みに心打たれました。被災者やガン患者、それぞれの痛みに寄り添うことが、互いを癒し立ち上がる力になる。是非ご覧頂きたい映画です。 アナウンサー 山根基世

三陸海岸1000キロを完歩する82歳、垣添先生の歩みの力強さ温かさ。その姿に共鳴したがんサバイバー、震災被災者たちから語られる言葉に多くの人が励まされるに違いない。フリーアナウンサー 笠井信輔

イラスト：嵐山光三郎



垣添忠生 Kakizoe Tadao

1941年大阪府生まれ。東京大学医学部卒業。国立がん研究センター病院に泌尿器科医として勤務。後に総長を務める。現在は、公益財団法人日本対がん協会会長。がんの診断、治療、予防に幅広く関わり全がんに目配りしている。著書「がんと人間」「妻を看取る日」「カキゾエ黄門漫遊記」他多数。